

「足るを知る」

第14組 恩善寺住職 渡邊 学

1月初めのある日、テレビの歌謡ショーを見ていた時のことです。

歌の合間にアナウンサーが、何人かの歌手に「初詣に行きましたか」と尋ねました。これに対して6割以上の人が行ったと答えました。

さらにアナウンサーは、「初詣に行って、どんな願いをしましたか」と尋ねました。

それに対しては、「健康でありますように」とか、「家族が幸せでありますように」とか、「今度出した歌がヒットしますように」とか、「いい出会いがありますように」といった願いが出されました。

ところが最後に出た橋幸夫さんはこんなことを言いました。

「私は初詣には行っただけで、神様に願い事は何もしていませんでした。ただ歌手デビューして以来50年、多くのファンの人達に支えられ、健康に恵まれて好きな歌を唄ってこられたことを神様に感謝して帰ってきました。」

私はこの話を聞いて、久しぶりに心が洗われるような気持ちになりました。

私たちは、一人一人がみ仏から受け難き命をいただき、あらゆる恵みの中で生かされているのです。その歓びに気づかないで、あくなき欲望のために、たまに神様の所に行って、あれこれと虫のいい願い事を並べたてていますが、どこまで願い事が叶ったら満足できるのでしょうか。

そんな人たちが多くの中で橋幸夫さんは、今の自分を満ち足りた心で感謝してみえます。

願い事ばかりしているかぎり、感謝と歓びの心は生まれないのです。

私は橋幸夫さんから大切なことを教えられました。